

多自然地域を後背地とする居住拠点都市の振興に関するシンポジウム in 沼田

開催日時 : 平成24年11月13日(火)14:00~17:00

開催場所 : ホテルペラヴィータ(群馬県沼田市材木町178-1) 参加者数 : 219人

基調講演「自然回帰の時代、中小都市の活路」

日本総合研究所 調査部主席研究員 藻谷 浩介 氏

人口減少と少子高齢化は日本全国で急速に進んでいるため、大量生産型の産業から脱却し、付加価値の高い製品を提供することが重要。多自然地域には、農村交流によって人口が社会増に転じている地域も多く、豊かな地域資源を活用して域内の経済循環を高めることが、圏域全体の発展につながる。



藻谷 浩介 氏

パネルディスカッション

「豊かな地域資源を活かした広域連携による地域活性化に向けて」

○ 利根沼田広域市町村圏振興整備組合 理事長 星野 已喜雄 氏

利根沼田圏域は、魅力ある資源を有する地域であり、従来から広域連携にも取り組んできた。実証研究では上毛高原駅を拠点とした広域観光ルートの構築を進めており、今後も圏域の市町村が一致団結して地域の発展を目指したい。

○ 医療法人大誠会 理事長 田中 志子 氏

認知症専門医として、圏域の認知症資源マップを作成するなど、地域のネットワークづくりに取り組んできた。子どもたちが将来にわたって住み続けたいと思えるような、安心して暮らせる利根沼田圏域を目指したい。

○ (株)アサバ 代表取締役 浅場 次男 氏 (栃木県日光市)

豊かな水資源を有する日光市では、食品関連企業が新たな雇用を生み出している。実証研究では、地域の製造業者、農業生産者、観光事業者等が一体となって、水を活かした新商品開発に取り組んでおり、日光ブランドとして一体的な情報発信を行いたい。

○ 富士吉田商工会議所 専務理事 渡辺 則明 氏 (山梨県富士吉田市)

実証研究では、インターネット上で地場産品や観光商品、グルメ等の情報発信を行う「富士山モール」の構築を進めている。民間事業者の意欲を高めるとともに多言語のページも挑戦したい。また、圏域の担い手となる若い人材の育成を進めたい。

○ 日本総合研究所 調査部 主席研究員 藻谷 浩介 氏

利根沼田圏域は魅力ある観光資源を有しており、医療・福祉などの分野では民間セクターのつながりも深い。今後は圏域ブランドの確立を図るとともに、住民や観光客が多目的に利用できる公共交通ネットワークを構築することが重要。

○ 総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課長 牧 慎太郎

尾瀬の山々などの地域資源に恵まれる利根沼田圏域は、大きな発展の可能性を秘めている。豊かな自然の中で若い子育て世代の定住を図るため、都市と多自然地域が一体となって広域連携に取り組むことが、今後の地域振興の一つの流れになる。

